

## 令和3年度 中学生の「税についての作文」

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

### 「権利を支えているもの」

柏市立柏第二中学校 三年 石川 美桜

私は今、公立中学校に通う三年生だ。学校に通い、教科ごとの先生の授業を受け、各科目の教科書や資料集、ワークで勉強している。毎日の通学リュックは重くて大変だが、学校には大好きな友達や仲間がいて、いろんな先生がいて刺激を受けられる。私は今の学校が好きだ。さて、勉強についてだが、家庭学習や試験の前などは参考書や問題集を購入して使っている。多くの問題を解き、理解を深めるためにはとても便利だ。しかしそれらにはお金がかかる。値段と内容を照らし合わせ、納得のいくものを購入しているつもりだ。

では公立中学校に通う私の教育費はいくらかかっているのだろうか。聞いて驚いた。授業代も教科書代も払っていないと言うのだ。エアコン完備、トイレは洋式で快適だが、施設代も払っていないそうだ。(私立中学校では各費用を負担するようだ。)母に聞くと、それらは税金でまかなわれているらしい。そこで私は財務省のHPを調べてみた。それによると教育については、文教及び科学振興費という項目になっていて、公立中学校の学生であれば一人につき年間約百万円を国が負担しているというのだ。教科書などの代金も、学校の先生の給料も全てここから支払われていたのだ。驚いて母に言うとこれまた驚きの答えが返ってきた。「まさか知らなかったの？税金を納めている国民にも、そういうシステムの日本にも感謝しなさいよ。」

我が家は貧乏でもないが裕福でもない。私立に行くほどの経済的余裕はないそうなので、公立に通っているが、教科書や資料を無料で使えて、大学を卒業した教員資格を持つプロに無料で教えてもらえる、こんなに有難いシステムってもしかしてすごいのではないか。

母の言ったように、自分の教育を受ける権利は国民が納める税金によって支えられているものなのだ。ちなみに令和二年度の消費税収入は約二十兆円だそうだ。消費税は徐々に引き上げられていて文句の多い税のイメージがあるが、財務省によれば消費税の引き上げによる増収分は全て社会保障の為に使われているとの事で、国民にいろんな形で還元されているのだ。

今は私は子供であり恩恵を受ける立場である。しかし権利ばかり主張して、ただ文句を言うのは恥ずかしい事だ。まだ子供ではあるが私も消費税を納めている。支えられるだけでなく、支える側でもあるという自覚と誇りを持って消費税を納めたい。

今、恩恵を受けている事に素直に感謝し、そしてこれから私もまた社会に対してその恩を返し、次の世代が同じように恩恵を受けられるように行動で表す。その一つが「納税の義務」であり、大人の責任である。日本で暮らしていく以上、社会の中で責任を果たし、社会に貢献できる大人になりたい。